

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成31年2月13日 VOL. 91

住み慣れた家でいつまでも過ごしたい ～ みんなで支える在宅医療 ～

平成31年2月2日（土）青島地区交流センターを会場に、「いっぽの会」（代表：間島二美子氏）主催の『いっぽの会福祉講演会「最期までどう生きる」パートⅢ』が開催され、市民を中心に約190人が「最期まで自分らしく生きるには」について考えました。

「いっぽの会」の活動のご紹介



いっぽの会 会員の皆さま
(前列左2番目：講師 井原詠子氏)

いっぽの会は1991年(平成3年)に旧志太榎原保健所が主催した「生き生きライフ講座藤枝」の受講生有志により発足しました。「より良い高齢者福祉」を求めて学び、ボランティア活動を行い、勉強会や情報交換会を行う自主グループです。

会の発足から27年、講演会活動も27回を数えます。当初は著名な評論家や専門家を講師に招いていましたが、近年は「この藤枝で最期まで自分らしく生きる」をテーマに身近な講師に依頼しています。



「最期まで自分らしく生きる」を考える



最近いっぽの会に「病気やケガで入院したあと在宅の生活に戻れるのか」という不安の声が寄せられるようになりました。そこで藤枝市立総合病院 医療支援センター 地域医療連携担当部長の井原詠子氏を講師に、事例を含めた講演を依頼しました。

井原氏は、大事にしているのは「患者さん自身がどう生きたいか、どこで過ごしたいか」という声に耳を傾け、心に届く退院支援をめざしていると話し、寸劇を交えて伝えました。

私の(家族の)希望を話しておこう「人生会議」

- ・自分は「救命救急センター」で積極的治療 心停止または呼吸停止時の救命処置を

希望します 希望しません

想いつわぎノートに書いておきましょう

86歳になるすすおばあちゃんは元小学校の先生。元気に生活していましたが腹痛でご飯が食べられなくなり、市立病院に検査入院。その結果「すい臓がん」で余命1カ月と宣告されました。すすさんは、脳出血で他界したご主人が病院で最期を迎えたことを残念に思っていて「もうこの年で治療は望まない。入院生活は嫌だ。家で見てもらいたい。静かに苦しくないように逝きたい」と。

同居する娘のふく子さんと娘婿の万平さんは介護が不安で入院を希望します。そこで病院の看護師がすすさんの想いを受け止め、多くの職種でチームをつくり「皆で支える」ための退院前カンファレンスを開き、病院チームから在宅チームへ繋いでいきました。

- ◇みんなの支えを力に、すすさんは住み慣れた家に戻ります。姉の原さんや妹の則子さんも来てくれるし、少し大変になってきたことは西脇ケアマネさんに相談しながら調整してもらっていました。
- ◇退院から3カ月の夕食後、すすさんの呼吸が乱れ万平さんは大慌て「救急車を!!」、しかしふく子さんが「そうじゃないでしょ。こういうときは石神訪問看護師さんに連絡するのよ!」
- ◇石神さんが到着した午後8時、すすさんは家族に囲まれ「いい人生だった。ありがとう。」と静かに息を引き取りました。

ふく子さん 万平さん 原さん 則子さん「家でよかったです。皆で送ってあげられた。」



寸劇協力キャスト

最後にかかりつけ医を演じた志太医師会在宅医療サポートセンター川村コーディネーターより、平成31年3月9日(土)開催予定の「平穏死を考えるつどい」についてご案内しました。

- 志太医師会在宅医療サポートセンター
- 株式会社訪問看護ステーション・スポット
- 藤枝市立総合病院医療支援センター & 職員OB
- いっぽの会会員
- 藤枝市認知症地域支援推進員
- 藤枝市地域包括ケア推進課